

(別紙4) 平成 24 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872500079		
法人名	社会福祉法人 博友介		
事業所名	フロイデグループホーム美和		
所在地	茨城県常陸大宮市鷲子686-1		
自己評価作成日	平成24年4月3日	評価結果市町村受理日	平成24年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である医療法人との連携を取りながら、医師・看護師・薬剤師・栄養士のバックアップを受けて、医療と介護のサービス提供を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou_ip/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0872500079&SCD=320&PCD=08
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成24年6月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年開設の落ち着いた雰囲気のある1ユニットのホームである。母体法人が病院であることや系列に特別養護老人ホーム等もあることで、介護技術に優れた職員が多く、健康・医療・安全面では家族からの信頼もたいへん厚い。管理者は、運営推進会議やホームでの祭り等を通して親しくなった地域の子供から高齢者まで、特に若いお母さん達と一緒に、ホームを基点としてみんなで出来る体操等を取り入れて、当地区の健康増進を図っている。同時に重度化した利用者も元気な利用者と一緒に地域の一人として地域に溶け込み、地域の方々と交流が出来るようになることを目指して積極的に活動している。職員は豊かな経験とケアの専門知識を活かして丁寧な記録を基に常に利用者本位の話し合いをし、利用者それぞれが畑作りやホーム周りの草刈り、親しい友人との語らい等、一人ひとりに応じた役割や楽しみをもって日々を過ごせるよう支援している。利用者は9名と少人数でゆったりとした家庭的な雰囲気のなかで、無理なく一人ひとりの思いや健康状態が把握されており、100歳と高齢な利用者も伸び伸びと今出来ることをしながら暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	#	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	#	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームエントランスに事業所理念を掲示し職員で意識共有をしている。	法人の運営理念を基にホーム独自のケア理念をつくり、全職員は理念を常に携帯したり目に付く場所に掲示するなどして共有を図っている。カンファレンス等では利用者それぞれの出来ることや体力等について十分に話し合い、一人ひとりが理念にそって役割をもちながら誇りある生活ができるよう支援している。	地域密着型サービスの意義や事業所としての役割などについて十分に話し合い、これを基にホーム開設時に作った理念を再検討し、現在の職員の思いを反映しながら、新しい理念作りに取り組まれることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	デイサービスを併設にて運営し、地域の利用者やご家族様と交流することで、日常的な付き合いが継続出来るよう援助している。	地域との交流は開設当初から進めており、良好な関係が築かれているが、利用者の高齢化や体力を考慮して新しい取り組みを検討し、ホームの広場を利用して地域の子供から大人・高齢者も一緒に楽しめる祭を計画・実行した。祭囃子保存会の小学生・父兄等が多く参加し、地域の幼稚園児と20代の若い母親等の協力で地域ぐるみの祭として利用者・地域住民と共に楽しめた。今後回覧板を回してもらったり、定期的な集まりを企画したり、当地区の健康増進を目指した取り組み等も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターや行政との定期的な意見交換を行い、地域の人々に向けた活動が出来るよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度奇数月に開催し、包括支援センターや行政と意見交換を行っている。	地域包括支援センターの職員や、市職員の出席を得て2ヶ月に1回開催してホームの活動状況を伝えたり意見や提案をいただいている。利用者や家族、地域住民等の会議への出席を目指して、祭などで交流ができた家族・区長・民生委員・地区班長等と話し合いが進められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議に参加していたり、連携を図っている。	運営推進会議ではホームの実情を伝え、その都度適切なアドバイスをいただいている。市のグループホーム連絡協議会には市の担当職員も常に参加しており、必要な情報をいただいたり、困ったことがあれば何時でも相談できる関係が出来ている。管理者はホームの状況を伝えながら連携を深め、より良い協力関係が出来るよう積極的に働きかけを行っている。	

茨城県 フロイデグループホーム美和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	エントランスに身体拘束をしないケアの指針を掲示し、職員が共通理解をすることで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルにそって毎年勉強会を開催して全職員が身体拘束についての共通の認識をもち、常に拘束の無いケアを実施している。「身体拘束ゼロの手引き」は何時でも確認できるようにしている。拘束の必要なときに備えて「同意書」はあるが、精神科受診や職員の拘束をしない工夫で現在まで拘束のないケアが実践できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターと定期的に交流を持ち、情報交換や学ぶ機会を得、援助できる体制を整えている。※事例は無し		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターと定期的に交流を持ち、職員を同席させることで、援助できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前においては、重要説明書の説明を行い、入居後の改定においては問い合わせ先を明記した説明文書の送付や電話対応による説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なアンケート調査を行い、要望等を聞く機械を設けている。	玄関に意見箱を置いたり、面会時にゆっくり話ができるように工夫をして気軽に意見や要望を聴けるようにしている。また年1回は具体的な設問によるアンケートを実施して家族の思い等も聞き取るようにしている。アンケート結果は集計し、全職員で検討して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を開き意見交換を行っている。	ホームの運営については全職員が気軽に話し合える雰囲気があり、常に意見や提案を出して積極的な話し合いが行われている。様々な意見や考え方がある場合には月1回の会議で検討して運営に反映させている。幼児がいる等家族の都合を考慮しての夜勤免除や月2回の希望休の取り入れ等職員が働きやすいような取り組みも実施している。また草取り用の道具の購入等、必要な備品の購入等は職員の要望によって行われている。	

茨城県 フロイデグループホーム美和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標とそれに伴う評価システムであるチャレンジカード、人事考課文書により職場環境や条件整備等の指針としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己目標であるチャレンジカードを半期ごとに提出してもらい、本人に見合った目標やトレーニング等の設定を行い評価している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部事例発表を行い、優れた事例に関しては、外部でのセミナーにて発表できる機会を設けている。また、定期的に職員を全国セミナーへ参加させ外部交流を行わせている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族やご本人と面会し、人間関係の構築や要望等の聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族やご本人と面会し、人間関係の構築や要望等の聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域性の問題（他市町村住民の申し込み）や費用の問題等、当施設利用が困難な方に対しては、利用可能なサービスの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の担当制を敷き、関係構築がより密になるよう努めている。		

茨城県 フロイデグループホーム美和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間の設定を行わず、自由に面会できることで、絆が保持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスを併設しており、近所の利用者との交流を促すことで、人間関係が維持できるよう援助している。	親しくしていた人に手紙を出すことを支援したり、家族へ無料で電話できるようにして馴染みの人との関係が途切れないようにしている。また農業をしていた利用者には野菜の苗と一緒に買いに行く等して習慣を大切にしたり、以前住んでいた家を見に行く等本人の思いにそって様々な関係が途切れないよう支援している。またデイサービスに訪れる利用者との交流や近くの道の駅を度々訪れることで新たな馴染みの人や場所が出来ることも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に畑を作ったり、イベントを行う等、利用者同士が関わり合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等でサービス利用が終了しても、お荷物の一時預かりや相談援助等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身体機能の低下による畳部屋へのベッドの設置相談や自宅で使用していた家具の自由持ち込み等を行っている。	利用開始時の聞き取りや家族との話の中から本人の思いを聴いたり、利用者との日々の会話の中からそれぞれの思いを聞き取ったりしている。個別記録には日々の記録として各職員のたいへん丁寧な観察が細かく記録されており、一人ひとりのその時々を思いを把握する工夫が見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入院していた先のMSWや居宅ケアマネジャー等と連携し、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的カンファレンスを開き、現状把握に努めている。		

茨城県 フロイデグループホーム美和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね3ヶ月に1度管理者、家族、職員が連携し、その時点で有効と思われるケア計画を作成している。	一人ひとりと丁寧に関わりながら本人・家族の意向を取り入れて暮らしを反映した介護計画が作成されている。利用者の趣味や役割を計画に入れることで、生活に楽しみややりがいが増し健康増進につなげる工夫等も計画の中に見られた。 カンファレンス・モニタリング等も全員で行い、定期的な3か月毎の見直しや利用者の状態に合わせた随時の見直しが丁寧に実施されていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や日誌に個々の状況を記載し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループ内の介護用品販売店と連携し、希望に際して柔軟な対応を個々を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読み聞かせやバイオリン等のボランティアの資源を中心に豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が元々、等グループの医療機関がかかりつけ医となっており、連携・支援している。希望があれば他の医療機関の受診も援助している。	利用者や家族の希望によってはかかりつけ医への受診も出来るが、現在は全員が協力病院をかかりつけ医としている。月1回の往診で健康状況の把握をしている。往診や受診の記録は専門医への受診も含めて「受診結果記録」として保存し、本人・家族・職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な医療相談は、併設のデイサービス看護職員に行い、判断に迷うときや、緊急時等に関しては、法人内の看護部門責任者もしくは、系列医療機関の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	系列医療機関とはメールやグループウェアソフトでの情報交換が行える体制になっている。また、必要に応じて電話連絡も行っている。		

茨城県 フロイデグループホーム美和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際の事前説明において、対応可能な状況や退所の対象になる状況を説明し、納得していただいた上で契約をしていただいている。	終末期ケアについては全職員が勉強会をして技術の向上を図っている。また特別養護老人ホーム勤務を経験した職員等もあり、ホームにおける看取り事例はないが、重度化に対するケアについては十分に対応できる体制を整えている。丁寧な「看取り介護計画書」を作成して、協力病院との連携を図りながら看取りケアが十分に行えるような取り組みが出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で定期的に救急救命の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行うと共に、近隣の方に災害時の援助をお願いしている。	定期的な防災訓練の実施に加えて職員は緊急連絡網を作成し、夜間でもすぐに駆けつけられるようにしている。地元職員が多く2分でホームに駆けつけられる職員もあり、消防署は5分以内にある等様々な検証をして安全を図っている。9月には近所の住民と一緒にAEDの使い方の講習等も含めて夜間を想定した避難訓練の実施が出来るよう区長と話を進めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を一人の生活者ととらえ、人格を尊重した対応を行っている。	人生の先輩として節度を保った対応を常に心がけている。介護者の考えで判断しないようにしており、常に利用者の言葉や態度を注意深く見守り、利用者の気分や行動に寄り添うようにしている。また、入浴介助においては利用者の希望により同姓介助も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴の希望等、可能な限り、希望に添えるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に日課は作らず、就寝時間や起床時間も自由にしてもらう等、その方なりの生活リズムを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と連携し、衣服や身の回りの物等、希望したものを援助してもらえるよう務めている。		

茨城県 フロイデグループホーム美和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶入れや後片付け等を一緒に行ってもらっている。	食材は法人で用意しており、ホームで作れないようなものは特別養護老人ホームで作っている。調査当日は海藻入りのサラダが食べられない利用者のために、海藻入りサラダがゼリー状でおはぎ型に作られたものが提供されており、見た目もおいしそう喜んで食されていた。一人ひとりに合った代替え食を用意したり、職員も一緒に食卓を囲んだりして落ち着いた雰囲気の中で、静かに会話しながら食事を楽しんでいた。またそれぞれが落ち着いて楽しく食事が出来るように少人数で食卓を囲めるようなテーブル配置の工夫も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家族同意の下、系列病院の栄養士による栄養管理指導を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄その他の口腔ケアを毎食後に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルトイレの設置やトイレでの排泄援助等、自立支援を行っている。	夜間ポータブルトイレを使用する利用者もいるが、殆どの利用者が日中・夜間共にトイレでの排泄を支援している。把握した排泄パターンを活かして適切な声かけを行っている。ほぼ自立している利用者の場合でもさりげなく見守り、拭き残し・パットの交換等不十分なところは部分的に支援して、自立した排泄やトイレでの排泄が継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけの医師と相談しながら便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間や曜日を可能な限り、希望に添えるよう努めている。	檜の風呂は手入れが行き届き、浴室全体が清潔に保たれている。毎日何時でも入浴できるようにしているが、殆どの利用者は午後の時間帯で入浴し、週2～3回の入浴を楽しんでいる。必要に応じてシャワーは何時でも使えるようになっている。浴室マットは一人ひとり交換する等衛生面への配慮も行っている。時には気分転換にデイスービスの大きな浴槽を楽しむこともある。	

茨城県 フロイデグループホーム美和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を自身で決めていただくと共に、不眠を訴える方には医師の診察の下で眠剤処方等の援助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書きをファイリングし、効果や副作用等の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙等の楽しみ事の援助を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	僻地にあるため、頻繁には困難ではあるが、希望に添いながら、外出の援助を行っている。また、ドライブ等のイベントも計画実施している。	天気の良い日にはホーム近くの道の駅や近所への散歩、畑、ホーム周りの草刈り等利用者の体力に合わせて外に出る機会を多くしている。重度化した利用者も中庭に面したウッドデッキで車椅子でも外気浴が楽しめるようになっており、外の空気に触れながらお茶をたのしんだり、会話を楽しんだりしている。ホームの行事としての外出も花見等季節に応じて楽しめるよう計画している。利用者の重度化を考慮して今後は外部の人を招待して中庭を利用した交流なども計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	僻地にあるため、頻繁には困難ではあるが、希望に添いながら、外出の援助を行っている。また、ドライブ等のイベントも計画実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話は無料で使用していただいている。手紙等も投函その他の手配援助を行っている。		

茨城県 フロイデグループホーム美和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの清潔保持を心掛けると共に、季節感のある掲示等を心掛けている。	浴室やトイレは清潔で利用者の機能低下にも対応できるようになっている。廊下はゆったりとして所々にベンチが設けられており、気のあった者同士が話をしたり、外を眺めてゆっくり出来るようになっている。食堂ホールは窓が多く中庭に面して気持ちの良い風が吹き抜け、まぶしさの無い明るさが落ち着いた雰囲気である。冬は床暖房で程よい暖かさを保てるようになっている。また見やすい時計やカレンダーの工夫があったり、季節を感じさせる壁飾りや花を所々に生けたりして、利用者が季節を感じながら居心地よく生活できるような工夫が随所に見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士を同席にしたり、足湯コーナーを設けて一人になれるスペースを作る等の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には、居室への家具やその他の物品の持ち込みは自由となっている。退去時に関しても、一度に運び出しが困難な方には一時お預かりのサービスも無料で行っている。処分希望も無料で行っている。	居室はウッドデッキに出られる構造の和室や高窓の洋室がある。同じ造りの居室でもベットの置き場所や家具の配置、家族の写真や化粧品等それぞれのこだわりの品々等でその人らしく変化のある居室になっている。中には籐椅子や小さな位牌用の仏壇等を置いて自宅で過ごされているような雰囲気を作っている利用者もおり、それぞれに家族の思い出や職員の気配りが感じられ個性的な居室になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室とトイレに大きなパネルで漢数字とトイレイラストを設置し自立援助に取り組んでいる。		

目標達成計画

作成日: 平成 24年 8月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	H17年開設当初に作られたケア理念を、現在も共有・実践しているが、入居者様の高齢化・重度化、御家族様のニーズの変化等があり、開設当初からのケア理念では対応が難しく、現在の職員の思いを反映したケア理念の構築が必要である。	現在の職員間で、新しいケア理念を掲げる。	①地域密着型サービスの意義、事業所としての役割について再確認する ②今後ご利用者様とどのように生活して行きたいのか ③①②の話し合いを基にケア理念を作成する。	3ヶ月
2	2	定期的な運営推進会議は開催していたが、地域の方々と交流する機会を持つまでには至らなかった。H23年の東日本大震災をうけて、地域との繋がりの大切さを実感し、良好な関係構築を図る必要がある。	地域との良好な関係を構築する。	①イベントを通じた地域との交流 ②清掃作業への参加 ③地区のお祭りへの参加 ④回覧板などを利用した情報発信 ⑤美和地区民生委員の定例会へ参加	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。